



## 中心市街地 活性化に向けて

～金澤夕ぐれ祭りの実施を通して～

(社)金沢青年会議所副理事長  
浦 淳

私は、中心市街地は単なる金沢の都市中枢機能の集積にとどまらず、この「地域」の将来の都市ビジョンを映す、いわば地域の「顔」となるべきと考える。したがって、中心市街地の議論には、まず、金沢という都市が将来どうあるべき、どうあってほしいかという議論が不可欠であり、そのようなビジョンを構築した後に具体的な施策の落とし込みを行うという手順が望ましいと考える。

ではそのようなビジョン構築を金沢の若手経済人の手でできないかーそんな想いもあり、昨年、金沢青年会議所(金沢JC)で経済政策会議議長として提言書、「美しき日本の『趣都・金沢』構想」を取りまとめた。これは、量的拡大の時代から、質的発展の時代へと社会が移行行く中で、金沢のもつ潜在的ポテンシャルー伝統・文化・ものづくりなどの強みを最大限に活かした日本一高質な都市ー「趣都・金沢」というわかりやすい将来の金沢の都市像を設定し、同時にそれに向かう様々なアクションプランを策定、発信したものである。

(詳細は<http://www.kanazawa-jc.or.jp/>参照)

その中のプランの一つの具現案として行ったのが、本夏、7月29・30日の両日、中央公

園・広坂通り・21世紀美術館を舞台に金沢JCが主催した「金澤夕ぐれ祭り」である。当日は、金沢JCと共に、大学・NPO・福祉団体・地元企業など様々な「市民」が連携・参画し、浴衣のコンテストやダンスパフォーマンス、ゴスペルライブ、デジタルアートコンテスト、15,000本のエコキャンドルナイト、さらには若手経済人による金沢の今後のあり方を問う討論会など、夕方から夜を中心にさまざまなコンテンツを創り上げた。特に大がかりで華々しいコンテンツはなかったが、企画段階から様々な市民を巻き込むことが出来たこと、キャンドル点火など当日参加者にも祭りを創り上げる一翼となる仕掛けづくりをしたことーなどから、市民の手作り感のある祭りとなり、結果、予想をはるかに超える多数の方々に来場いただけた。また、けっして高尚なそれではないが、金沢古来の文化と斬新な感性がぶつかり合い新しい「金沢市民文化」発信の起点となりうる事業であったとも感じている。

「夕ぐれ祭り」は決して一過性のイベントではないと思いたい。それは、稚拙かもしれないが、私たちなりに「金沢のあるべき将来」を必死に考え、その趣旨に基づいて祭りを構築したからだ。「どうする？ 中心市街地」ではなく、「どうしたい、金沢？ だったら、どうする中心市街地??」ーこのような想いでまちづくりを実践する人々が増えれば、街は必ず動くと思う。

地域経済ニュースレター第 71 号

2005年9月30日発行

発行／金沢大学経済学部地域経済情報センター 金沢市角間町 (☎920-1192) ☎(076)264-5438

編集／地域経済情報センター 地域経済ニュースレター編集委員 (碓山洋、安嶋是晴、菊本舞)

印刷所／金沢市中村町28-14 榎谷印刷 ☎242-7267